

評価結果概要版



令和5年度

通所介護【デイサービス】

利用者調査とサービス項目を中心とした評価手法

法人名称	社会福祉法人至誠学舎東京
事業所名称	緑寿園ケアセンター
事業所所在地	東京都西東京市新町1丁目11番25号
事業所電話番号	042-462-1206

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え方（事業者の理念・ビジョン・使命など）	1) 真心を込めた丁寧な福祉サービス 2) ご利用者・家族との信頼による絆 3) 福祉コミュニティの協創 4) 仕事を通じた職員の自己実現 5) 法令遵守の履行

全体の評価講評

特に良いと思う点

・無理なく参加できる小集団ごとの体操、音楽体操、嚥下体操など楽しみながら体を動かす機会を提供している

事業所では可能な限り機能訓練指導員が初回訪問から同席し、利用者状況や家屋の状況を評価し、利用者が安全に在宅生活を継続できるよう支援している。希望者には自宅で行う自主訓練プログラムを提供している。また、機能訓練指導員の指導の下に機能訓練の目標が同じ利用者ごとに「グループリハビリ」、「リハビリ体操」、「頭と体の体操」等、グループ毎にメニューを変えて行っている。その他、音楽体操、食事の前の嚥下体操など楽しみながら体を動かす機会を提供している。利用者、家族から好評を得ており、感謝の声が寄せられている。

・職員が企画・実施する様々な行事やお楽しみ会、順次再開されているボランティア活動等、利用者が楽しめる機会を提供している

事業所では担当職員を決め、月間の行事やお楽しみ会を企画し、お誕生会の他、お茶会、夏祭り、敬老お祝い会、クリスマス会、新年会などを企画し、実施している。さらに季節の飾りつけを行い、利用者に楽しんでもらえるよう取り組んでいる。コロナ禍で来園制限の対象となっていたボランティアも順次再開されている。感染症対策を行ながら、余興ボランティア、書道、折り紙のアクティビティ補助のボランティア受け入れている。また、リモートピアノ演奏なども並行して行われている。利用者が楽しめる機会の提供に努めている。

・活動への参加や作品作りを通して、利用者が喜びや達成感を感じ、自信や意欲を持てるよう支援している

事業所では絵画や粘土、書道等常に平行して複数の活動プログラムを提供し、その日の利用者の希望によって参加する活動を自由に選択・変更できるようにしている。通所介護計画に記載された活動内容はあるが、事業所では個人の意思の尊重やその人らしさを大切にし、利用者自身で興味を持つことを見つけ、個々の利用者が持っている能力を発揮できるよう努めている。活動への参加や作品作りを通して、自主性や人との触れ合い、コミュニケーションを大切にし、また自己表現を行える喜びや達成感を感じ、自信や意欲を持ってもらえるよう支援している。

さらなる改善が望まれる点

・利用者主体の支援を行うため、職員間の情報共有のさらなる充実や確実化に向け、取り組みを進められることを期待している

事業所では多職種でのチームワークを大切にし、利用者主体の支援を行うため、利用者状況等をタイムリーに確認・共有できるよう努めている。同一法人事業所との統合に引き続き、新棟への移転もあり、融合や再構築に取組んでいるが、職員の勤務日数や勤務時間等に差があり、職員間での確実な情報共有が課題となっている。事業所では介護ソ

フトを新しくし、職員はタブレット上で利用者一人ひとりの記録・情報が確認出来るようになってきている。ICT化の促進と共に、ミーティング等をさらに充実させ職員間の一層の情報共有を図られることを期待している。

・新棟はバリアフリーで手すりもつけられているが、環境が変わったことによる利用者への影響、リスク評価、業務の見直しの取組が期待される

4月に完成、移転した新棟の建物は平屋で段差がなく、通路も広くとられている。トイレ、浴場もバリアフリーとなっている。デイルームは広い部屋にテーブル、椅子が置かれ、コロナ感染症対策の飛沫防止のアクリルパーテーションは取り外された。利用者が気持ちよく過ごせるよう席次に配慮し、親しい人と会話を楽しめるよう工夫している。広い窓の向こうは間近で園児が遊ぶ保育園で、利用者が思わず笑顔となっていた。しかし、バリアフリーとは言え、環境が変わったことによる利用者への影響評価、設備のリスク評価、業務の見直しの取組みが期待される。

・

事業者が特に力を入れている取り組み

・虐待防止に向け、あらゆる機会を捉えて振り返りや注意を促し、周知・徹底に努めている

虐待はあってはならないこととして入職時研修や全職員受講必須として虐待防止・身体拘束廃止研修の実施等組織的に取り組むと共に、ミーティング等あらゆる機会を捉えて振り返りや注意を促し、職員への周知・徹底に努めている。「虐待の芽チェックリスト」も毎年活用して日頃の利用者との係わりを再確認し、利用者一人ひとりの尊厳を大切にした支援となるよう努めている。事業所では高齢者虐待防止法が制定される以前から虐待防止に向けての意識は高く、行政や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所に向けて高齢者虐待事例検討会を継続開催している。

・事故やヒヤリハットの発生や再発防止に努め、利用者の安心・安全に取り組んでいる

法人内他事業所との統合やそれに伴う利用者や職員の移動、業務手順の違い等様々な要因が重なったこともあり、利用者の事故やヒヤリハット発生数の増加傾向が見られた。また今年度は新棟への移転もあり、引き継ぎの増加が懸念されたが、事業所内の危険予防マップの作成やタイムリーな情報共有、再発防止等を徹底し、重大事故に繋がらないよう細心の注意を払って支援に臨んでいる。事故に繋がる潜在的な要因を分析・把握し、適正な対応・対策を図る等多職種でチームとして協力し、事故発生や再発を防止し、利用者の安心・安全に向けて取組んでいる。

・在宅生活の継続に必要な選択、判断の機会を楽しみながら取り組めるよう工夫している

事業所ではその人らしく在宅生活継続するためには選択し、判断できることが重要であると考え、大人が楽しめる複数クラブ活動を同時にい、その中から利用者は当日の気持ちに併せて、自由に活動を選択する機会を提供している。職員は利用者が選択した作品作りや趣味活動での、利用者の良い点をみつけて利用者に伝え、楽しみながら取り組めるよう支援している。活動への取り組みを通して利用者の意欲が向上し、充実感、達成感が得られるよう配慮している。

利用者調査結果

有効回答者数/利用者総数

35/79

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答・非該当
1. 利用時の過ごし方は、個人のペースに合っているか	91.0%	どちらともいえない : 2.0%	いいえ : 2.0%	無回答・非該当 : 2.0%
2. 日常生活で必要な介助を受けているか	88.0%	どちらともいえない : 2.0%	いいえ : 2.0%	無回答・非該当 : 2.0%
3. 利用中に興味・関心が持てる行事や活動があるか	80.0%	どちらともいえない : 11.0%	いいえ : 5.0%	無回答・非該当 : 2.0%
4. 個別の計画に基づいた事業所での活動・機能訓練（体操や運動など）は、在宅生活の継続に役立つか	82.0%	どちらともいえない : 14.0%	いいえ : 0.0%	無回答・非該当 : 2.0%
5. 職員から適切な情報提供・アドバイスを受けているか	74.0%	どちらともいえない : 20.0%	いいえ : 2.0%	無回答・非該当 : 2.0%
6. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	94.0%	どちらともいえない : 2.0%	いいえ : 0.0%	無回答・非該当 : 2.0%
7. 職員の接遇・態度は適切か	85.0%	どちらともいえない : 11.0%	いいえ : 0.0%	無回答・非該当 : 2.0%
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	91.0%	どちらともいえない : 2.0%	いいえ : 0.0%	無回答・非該当 : 5.0%
9. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	82.0%	どちらともいえない : 14.0%	いいえ : 2.0%	無回答・非該当 : 0.0%
10. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	91.0%	どちらともいえない : 5.0%	いいえ : 0.0%	無回答・非該当 : 2.0%
11. 利用者のプライバシーは守られているか	94.0%	どちらともいえない : 2.0%	いいえ : 0.0%	無回答・非該当 : 2.0%
12. 個別の計画作成時に、利用者や家族の状況や要望を聞かれているか	88.0%	どちらともいえない : 5.0%	いいえ : 0.0%	無回答・非該当 : 5.0%
13. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	85.0%	どちらともいえない : 8.0%	いいえ : 0.0%	無回答・非該当 : 5.0%
14. 利用者の不満や要望は対応されているか	77.0%	どちらともいえない : 14.0%	いいえ : 0.0%	無回答・非該当 : 8.0%
15. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員会等）にも相談できることを伝えられているか	57.0%	どちらともいえない : 22.0%	いいえ : 5.0%	無回答・非該当 : 14.0%